

平成30年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市中学生3年生統一テスト」の調査の目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成30年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

**平成30年度 西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)					平均無解答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
3 年	学校	90	76	61	65	48	65	3.7	1.8	2.7	9.6	4.1
	大阪市	—	74	58	63	44	63	3.6	4.1	3.7	14.9	5.9
4月17日	全国	—	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	92	52.8	48.0	57.3	52.8	54.1	15.4	3.9	10.2	7.8	4.3
	大阪市	—										
9月4日	大阪府	—	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5	16.0	4.5	10.3	7.3	3.6

3 大阪市中学校3年生統一テスト

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)				
			国語	社会	数学	理科	英語
3 年	学校	94	61.1	58.8	57.6	53.9	56.0
10月4日	大阪市	—	60.2	58.8	59.2	57.1	60.7

平成30年度 西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

国語…校内平均正答率は市の平均をわずかながら上回る結果であった。領域別では、書くことと伝統的な言語文化が比較的強く、話すこと・聞くことが比較的弱いことがわかる。今年度に入り、特に時間をかけて指導した領域が伸び、あまり時間がとれていない領域が伸びていないといえる。学校の授業の持ちようが調査結果に如実に表れたことから、次年度以降の指導に役立てたい。

社会…基礎・基本となる学習事項の定着のため、小テストを一学期から継続して実施してきた結果、知識・理解が大阪市の平均を上回ることができた。また、資料の活用・技能においても日頃の授業でのグラフの読み取りに取り組んできた成果が表れたと考えられる。しかしながら、選択式問題では選ぶことはできていたとしても、短絡式、記述式でのポイントが大阪市の平均を下回ってしまったことが課題であると捉えている。

数学…生徒自身が自ら考えることに重点をおいた学習を中心に授業展開している成果が、記述式問題で大阪市平均を上回る結果を得ることができた要因として考えられる。選択式問題等では大阪市平均を上回る結果を得ることができないので、弱点克服のポイントをより明確にしながら、生徒一人ひとりをサポートしていくことが今後の大きな課題である。

理科…無解答率は低く、学習領域別では、地学的分野の知識定着力は高い。一方、観点別では、科学的思考が弱く、記述式形式の問題での誤答・無解答率が高い結果であった。

英語…大阪市と比較して、平均点が4.7ポイント下回る結果であった。全体の配点を見通す中では、「聞くこと」と「読むこと」「外国語理解の能力」では他の領域と比較すると、差が小さかった。「書くこと」は点数があまりふるわなかつた。やはり他の領域と比較しても「書くこと」は最終難問課題である。とくに「読むこと」の力をより一層高め、「書くこと」を伸ばしていく必要性がある。

【今後に向けて】

国語…より綿密な、3年間を見通した指導計画を確立することが必要である。併せて、小中連携した指導も模索していきたい。中3チャレンジテストで見られた、読解の速度については、成績上位層では克服されているが、下位層ではまだまだ不十分である。多読を通して速読につなげていきたい。

社会…結果として大阪市の平均を上回った分野については更に学習を深めるよう復習を徹底して行っていきたい。大阪市の平均を下回ってしまった分野は問題演習の練習量を増やし、慣れさせたうえで得点に繋がるよう指導していきたい。

数学…重点的な対策が必要である領域として、関数分野と資料の整理分野があげられる。苦手意識を持つ生徒も多くいるために、できるだけ一人ひとりに適した教材を提供しながら、対策を進めていきたい。

理科…観察や実験の回数を精選し、知識の定着を図るべく、単元ごとの小テストの回数を増やし、文章記述の練習の回数も増やしていきたい。

英語…「読むこと」に力を入れて学習を進めるために、朝学習で週1回行っている読み物教材の回数を増やしたり、授業では「読むこと」を意識した発問の仕方や、教材の準備を要する。「書くこと」は、今後も継続して、課題を増やしたり、できるだけ書かせる内容を多くする工夫を行っていく。